

7-3

3年間のリスクマネジメントの取り組み

リスクマネジメントの苦悩と実践

生活リハビリ

ハード面の取り組み

特別養護老人ホーム かいらくえんほーむ 偕楽園ホーム

介護係リーダー 佐々木信雄

生活相談員 斉藤明子

東京都八王子市宮下町 983 番地

TEL:042-691-2830

E-mail:fvgv9410@mb.infoweb.ne.jp

FAX:042-691-8288

URL:http://homepage1.nifty.com/kairakuen/

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人一誠会の偕楽園ホームは八王子市に昭和 55 年、特別養護老人ホーム 100 床にて開設しました。今まで特養のみで行ってきた施設ですが、今年 1 月から居宅支援事業所を開設し、空床利用ですが、ショートステイも行っています。利用者に寄り添うケアを心がけ一人ひとりを大切にしたい介護を心がけています。

〈取り組んだ課題〉

- 転倒や転落、新入所者の事故が多かったため、どうすれば防いでいけるのかを考えた事が取り組みの動機
- 潜在的なリスクの早期発見と対策の共有。
- 事故報告書の改正
- ハード面での充実
- 安全確保のための備品の充実
- リハビリへの取り組み

〈具体的な取り組み〉

- 毎週行われる勉強会の開催。（2 週同じ項目を行う）
→ここでは、マニュアルの更新や内部研修を行い知識・技術の向上を主とする
- 危険予知訓練の開催。
→職員会議後や勉強会後を利用して、※危険予知訓練の資料や加での写真等を利用する事で職員間のリスクにおける視点の共有や意識の向上を図った
- ハード面の検討
→ベットの介助バー、転落衝撃緩和マット、安全自動ブレーキ車椅子等の物品の購入。
→フロアをクッションフロア化→転倒、転落の衝撃緩和、ワーカー室カウンター化→死角の減少。
個人識別ナースコール導入・PHS での内外線導入。
→迅速な対応
- 報告書の改善
→事故発生前から家族連絡までを 1 枚の報告書で行い。情報の簡素化、伝達スピードの向上、分析・検討が行いやすい書式に。
- OPT 評価による個別リハビリ・生活リハビリの導入
→生活の中での歩行機会の提供や促し、集団で行うレクリエーションの要素を取り入れたリハビリ、個別訓練等
- 危険箇所チェックリストの活用

〈活動の成果と評価〉

- 当初、ヒヤリハット等日誌から抜き出し、まとめましたそのまとめたものには、ハインリッヒの法則そのものを実現にしているような内容でした。
- 職員間のリスクやヒヤリハットにおける意識が高まった
- 報告書の書式の改善により、情報の簡素化、伝達スピードの向上、分析・検討が行いやすく、医療機関への受診や家族への連絡を含め、1 枚の書式ですべてが解るようになった
- 情報収集。再アセスメントが行いやすくなった結果から、個別のリスクの情報の共有、再発防止、ケアプランへの反映等ができるようになった。
- ハード面の整備から転倒、転落時の早期発見。予防
- 転倒転落などの件数を減少
- 職員のお客さまへの対応（歩行や立ち上がりを制止する介護からリハビリの観点からその行動を受容しその行動を促していける姿勢）
- 上記によるお客さまの表情の変化
- 家族への密な連絡
- リハビリの観点からリスクを減らす事よりもお客さまの ADL の向上に目を向けるようになった

〈今後の課題〉

- 誤嚥に対する、取り組み
- 誤嚥を起さない、取り組み
- 転ばせないケアから転ばないケアへの取り組み（リハビリや個別ケアの充実）
- 職員へのリスクテイクングのアプローチ

〈参考資料など〉

※危険予知訓練簡単ガイド（筒井書房）